

# 平成23年度第1回山形県立図書館協議会議事録要旨

平成23年7月15日(金)  
13時30分～15時10分

## 1 出席者

協議会委員；佐多不二男委員、佐藤晶子委員、鈴木雅史委員、孫誌銜委員、  
竹田真知子委員、西村仁美委員、沼野慈委員

県教育庁；江口教育次長、生涯学習振興課 伊藤課長補佐、菅原主査

県立図書館；佐藤館長、秋葉副館長、渡部主幹、渡辺主幹、  
山中資料管理専門員、鎌戸調査相談専門員、鈴木資料整備専門員、  
富樫運営企画専門員、小林総務専門員

## 2 委員長の選出

委員の互選により佐多不二男委員を委員長に選出

## 3 傍聴について

傍聴希望者1名(報道関係)に対し委員長許可

## 4 協議

(1) 平成22年度図書館運営の実績について(事務局説明)

(2) 平成23年度図書館運営の方針について(事務局説明)

### 孫委員

23年度事業計画のテーマ展示の1つ「就職支援コーナー」についてですが、公共図書館は地域情報拠点としての役割を担う必要があり、非常に良いサービスだと思います。ただコーナーのタイトルが気になりました。利用者が失業者とみられ肩身の狭い思いをしないようタイトルにひと工夫があるとよいと思います。最近の傾向として、「ビジネス支援」としている図書館が多いようです。

### 事務局

「就職」の中には失業による再就職ばかりでなく、若者へのキャリア教育という側面もありますので2つの要素を含んでおります。そのへんの考え方はいかがでしょうか。

### 孫委員

最近の他県の状況をみますと、「ビジネス支援」という取り上げ方がほとんどで、就職関連に加えて新しいビジネスの立上げに役立つ資料などを提供しているようです。

### 沼野委員

今のご意見に関連してですが、中高校生のキャリア教育として生徒に新しい職業観を持ってほしいという趣旨で講演活動をしています。その中で県立図書館に出掛けて職業への考え方やこれまで知らなかった働き方に触れてほしいという話もしています。「就職支援」というのは限定された印象を受けるかもしれませんね。展示期間、展示資料、貸出実績について数値的に評価する場合、どれくらい効果があるのか関心を持っています。

事務局

テーマ展示のタイトルについて、ご意見を踏まえ検討して参りたい。

西村委員

山形県学校図書館連絡協議会の会長としての立場から述べさせていただきたい。五教振を受けて子どもの読書推進に力を入れていると伺い期待しています。学校から公共図書館への要望として、調べ学習のための資料を一定期間まとまった冊数貸出させていただきたい。また県立図書館職員等を講師として学校図書館の司書教諭等を対象に読書推進に関する研修会を開催していただきたい。組織体制をみますと講師として派遣できる職員体制はないようですが、その可能性についてお伺いしたいと思います。

事務局

一括貸出については現行制度で対応可能と思われませんが、さらに学校図書館との連携を深めるため、図書館利用ハンドブックの作成、学校図書館の問合せ窓口の一本化、定期的な協議の場の設定などを検討しております。研修については生涯学習振興課で年間計画を作成しています。県立図書館職員の講師派遣についてですが、ほとんどの職員が行政職であります。内容によっては対応可能と考えております。

佐藤委員

「中期運営方針」の説明の中で図書館評価というのはどういうものですか。

事務局

行政課題についてはPDCAによる改善の取組みを行うことが一般的な手法ですが、図書館運営についても年間貸出数、入館者数の増加割合、企画展示の事業数などを目標値とし、あるいはアンケートによる満足度調査を行うなどして、評価の指標や目標水準を設定し、評価と見直しを重ねることでサービスの向上を図ろうとするものです。

鈴木委員

活字に携わった仕事をしているものですから、最近若い世代の活字離れが気になってきます。貸出資料数の年齢別構成の説明では20代までの利用者が22年度では全体の22.3%となっていますが、この割合は最近落ち込んでいるのか、それとも以前からこの傾向が続いているのかお伺いしたいと思います。

事務局

データとして傾向を端的に示したものではありませんが、若い世代の活字離れや少子高齢化の影響が出ているのではないかと考えられます。

竹田委員

子どもの読書離れについてはよく言われていますし、インターネットを開けば簡単に調

べられることが影響しているかもしれません。当山形北高の場合ですが、本を読む習慣を身につけるため、昨年度から朝のショートホームルームの10分間を「先見の時間」として読書に当てています。図書館講座では調べた結果を発表しディベートに発展させるという活動で本に親しませています。おかげさまで子ども読書活動優秀実践校として文部科学大臣から表彰を受けることになりました。

昨年の県立図書館100周年記念事業のつちだよしはる氏のスペシャルトークはたいへん参考になりました。学校図書館の「位置」や図書の配置場所を変えたら子どもの利用が非常に増えたという実践を知り、本校の奥にある図書館の位置を改善できたらと思っています。

佐多委員長

各委員からそれぞれご意見をいただきました。ほかにご質問等はございませんか。では、私から感想を述べさせていただきます。PISAという国際学力テストでフィンランドが2度もトップの座についていますが、フィンランドは自国の文化や言語を大切にす国です。特に特徴的なのは図書館活動であり、父親が民話などの読み聞かせを中学3年生くらいまでしています。学校と図書館の連携が密接であり、専門家たちがブックトークの内容について研修会を開くこともあります。図書館では1回に30冊借りることができますが、子どもたちは毎月のブックトークを楽しみにしており、図書館は放課後の居場所になっています。大人たちの子どもを本に親しませる努力により、培われた読解力の力が国際学力テストトップの一因になっているのではないかと思います。

県が始められた「学校と公立図書館の連携による子どもの読書活動推進」はたいへんよい試みだと思います。ご指摘あったように、公立図書館は学校教育との関連でも今後ますます重要な役割を果たす必要があると思います。

(3) その他

山形県図書館協会の事業について(事務局説明)

佐藤委員

9月のヤングアダルト講座の講師の人選は決定していますか。

事務局

おおよそ決まっております。

佐藤委員

わかりました。

以上